

事務事業評価＆総合計画実施計画調査シート

	コード	名 称	区分	コード	名 称
事業名	97-4	国際交流推進事業(国際交流協会事業運営補助)	会計	01	一般会計
基 本 施 策	55	外国人と交流でき、共生できる地域社会をつくる	款	02	総務費
施 策	1	多文化共生社会の構築	項	01	総務管理費
			目	07	文化振興費
			細目	102	国際交流推進事業
			細々目	01	国際交流推進事業
基本計画該当頁		188	行革大綱の重点事項番号		
担当部課	コード	040200	評価者	澤田 洋子	連絡先
	名称	企画振興部文化国際課	氏 名		22 - 9624 (内線) 2120

事業の計画・内容

事業目的	対象等(何を、誰を)		成果(どうなるのか)	
	国際交流に関心のある市民及び団体		広域的に連携して事業が行え、在住外国人との交流が行える。	
	(対象件数)			
根拠法令・要綱等				
開始年度	平成	年度	関連事業	外国人児童居場所づくり事業
終了年度	平成	年度		
本年度事業内容	国際交流協会の統一 国際交流フェスタ2006 広報活動(機関誌発行、ホームページ更新) 在住外国人共生事業(生活相談、情報誌発行) 多文化理解講座(外国語講座) ・ポルトガル語基礎講座(連続6回講座) ・中国料理講習会			状況変化等
	伊賀地区合併協議会での調整方針では、「6市町村に共通している団体は、新市発足時に統合する」としていることから、調整を図り統一ができた。 また伊賀市では、約5,000人の多国籍住民が暮らしており、今後も増加が予想されるため、幅広い国際交流活動を推進し、多文化共生社会の実現が要求されている。			

整備内容

1 建設用地	千円
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	

運営体制

1 運営主体	☐ 直営 ☐ 指定管理 ☐ 民間委託等
委託先	人 千円
2 配置(予定)人員	
3 年間運営費	
4 市内の類似施設	

進捗状況	年度					事業内容	平成17年度 決算内容				平成18年度 決算内容				平成19年度 計画内容				平成20年度 計画内容				平成21年度 計画内容				平成22年度 計画内容								
	事業内容	数量	単位	金 額			事業内容	数量	単位	金 額		事業内容	数量	単位	金 額		事業内容	数量	単位	金 額		事業内容	数量	単位	金 額		事業内容	数量	単位	金 額					
					(千円)						(千円)					(千円)					(千円)					(千円)					(千円)				
	委託	⇔				委託料負担金				4,000 200	委託料負担金				2,450 180	補助金負担金				3,385 160	補助金負担金				3,385 140	補助金負担金				3,385 140					
	工事	⇔																																	
進捗率 (%)						事業費計(A)		Σ		4,200	事業費計(A)		Σ		2,630	事業費計(A)		Σ		3,545	事業費計(A)		Σ		3,525	事業費計(A)		Σ		3,525	事業費計(A)		Σ		3,525
事業投入人員							人件費 (B)	0.7	人	5,040	人件費 (B)	0.7	人	5,040	人件費 (B)	0.7	人	5,040	人件費 (B)	0.7	人	5,040	人件費 (B)	0.7	人	5,040	人件費 (B)	0.7	人	5,040	人件費 (B)	0.7	人	5,040	
フルコスト (A) + (B)										9,240				7,670				8,585				8,565				8,565					8,565				8,565

事業費(人件費除く)の財源内訳

(A)	事業費	4,200	2,630	3,545	3,525	3,525	3,525
Aの財源内訳	国庫支出金						
	県支出金						
	地方債						
	受益者負担						
	その他						
	一般財源	4,200	2,630	3,545	3,525	3,525	3,525
	計	4,200	2,630	3,545	3,525	3,525	3,525
備考	その他特定財源の名称・補助基本額・率 地方債の区分と充当率等						

事業種別	継続	単独	事業類型		ソフト事業	2次評価対象分
------	----	----	------	--	-------	---------

活動指標	単位	実績値				目標値	
		H17		H18		H19	H20
国際交流協会の統一	団体	目標 実績	— 6	目標 実績	1 6	1	1
多文化理解講座	人	目標 実績	— —	目標 実績	5 7	8	10
機関誌の発行	部	目標 実績	— 600	目標 実績	600 600	600	600

評価指標

事業の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	実績値				目標値	
			H17		H18		H19	H20
国際交流フェスタへの参加者数	多文化に触れる機会の提供	人	目標 実績	500 400	目標 実績	500 600	650	700
多文化理解講座参加者数	多文化を理解し、慣れ親しむ	人(延べ)	目標 実績	— —	目標 実績	100 138	140	150

評価

評価項目	ポイント	評価項目についてのコメント
必要性	3	個々の国際交流団体では、それぞれの特色のある事業や目的があり、統合しにくい、伊賀市となり、一体化と効率化または専門性を高める必要があり、そのための最小限度の行政の介入は必要である。
有効性	4	それぞれの国際交流協会が国際交流・多文化共生に取り組んできたので、統一後は更に、広域的に連携し、在住外国人との交流の機会が増える。
達成度	3	今年度最も大きな事業の一つとして、国際交流協会の統一に向け計画どおり進んでいる。その他の事業についても、NP0、民間団体と連携しながら計画どおり達成することができた。
効率性	3	統一することにより、助成金の一本化を図り、コストを抑えることになる。また、これまで各地域で行っていた事業を市内全域に広げていくことができる。

総合評価	事業の方向性	改善についての取り組み
A	現状維持	統一されたが、体制の見直しを図り、事業を展開していく必要がある。国際交流協会の事務局を文化国際課に設置しているが、協会として自主運営することが望ましい。